

「登米市の環境についての児童生徒アンケート調査」の結果について

< 調査の概要 >

このアンケート調査は、将来の登米市を担う子どもたちが日ごろ登米市の環境に関して考えていることや環境保全に取り組んでいることなどを把握し、環境基本計画に反映させていくことを目的として、市内の小学校5年生(787人)と中学校3年生(830人)を対象に実施した(計1,617人)。

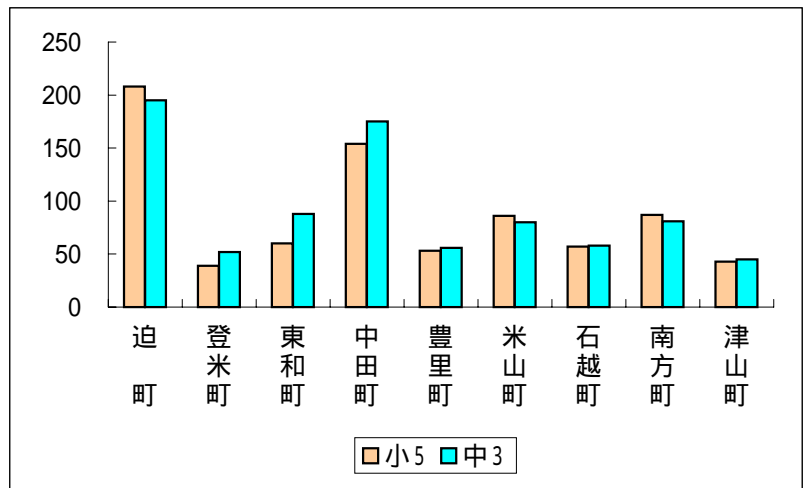
調査書は、平成18年8月に学校に配付し、各学校では平成18年9月にそれぞれ調査を実施した。

< 回収の状況 >

学校を通じて調査を実施したため、対象者全員から回答が寄せられ、すべてが有効回答であった。各町域別、学年別の回収結果(=対象者)は下記のとおりであった。

単位:人

町域	小5	中3	合計
迫町	208	195	403
登米町	39	52	91
東和町	60	88	148
中田町	154	175	329
豊里町	53	56	109
米山町	86	80	166
石越町	57	58	115
南方町	87	81	168
津山町	43	45	88
合計	787	830	1,617

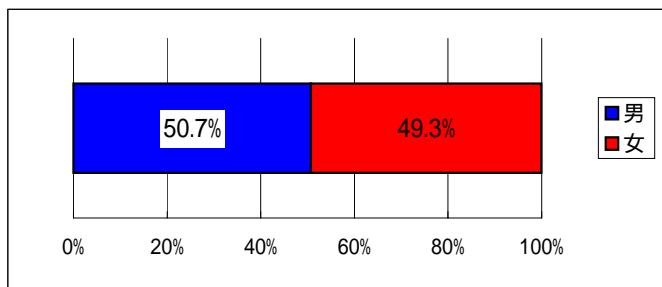


< 各設問への回答結果 >

問1 はじめに、あなたの性別を教えてください。

(どちらかの性別を1つ で囲んでください。)

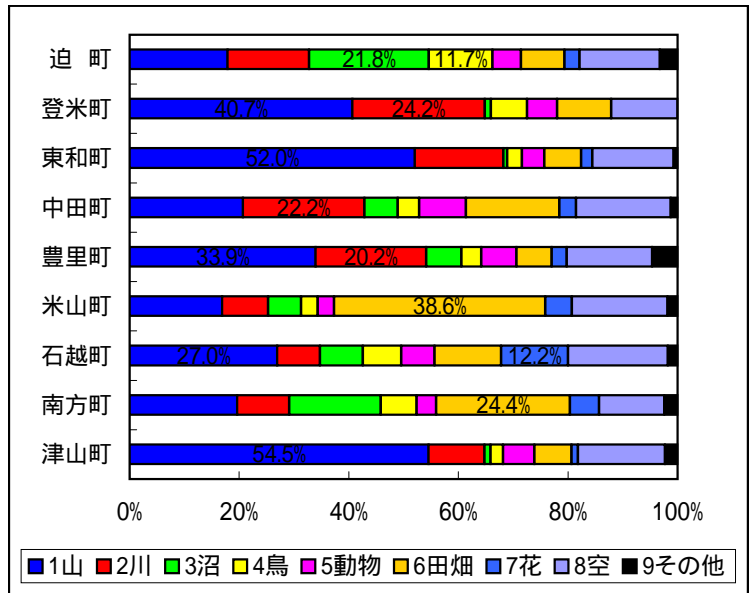
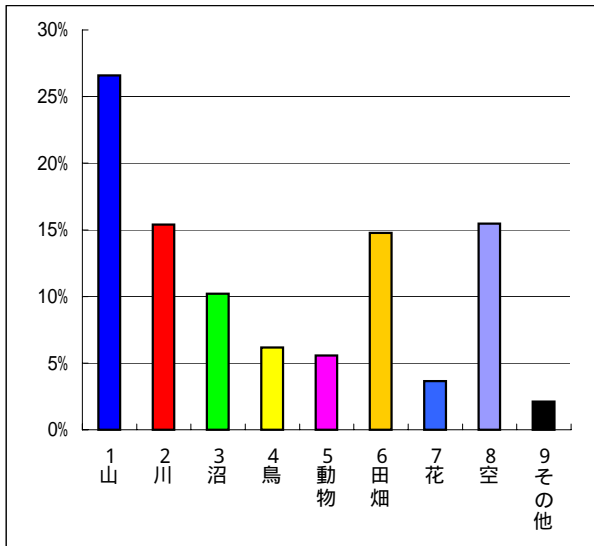
- | | | |
|-----|-----|-------|
| 1 男 | 820 | 50.7% |
| 2 女 | 797 | 49.3% |



問2 「登米市の自然」といった場合に、あなたが一番大事だと思うものは次のうちどれですか。

(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

- | | | |
|--------------------------------|-----|-------|
| 1 山 (山の地形, 山の緑, 山の森林など) | 431 | 26.6% |
| 2 川 (北上川, 迫川など) | 249 | 15.4% |
| 3 沼 (伊豆沼・内沼, 長沼, 蕪栗沼, 平筒沼など) | 165 | 10.2% |
| 4 鳥 (ガン・ハクチョウなどのわたり鳥, イヌワシなど) | 100 | 6.2% |
| 5 動物 (鳥以外の動物, 魚, ザリガニ, 虫など) | 90 | 5.6% |
| 6 田んぼや畑 (そのほか土など) | 239 | 14.8% |
| 7 花 (桜, 花菖蒲, あじさい, チューリップなど) | 59 | 3.6% |
| 8 空 (そのほか空気, 風, 自然の音, 星空, 雲など) | 250 | 15.5% |
| 9 その他 | 34 | 2.1% |



< 解説 >

市全体では「山」と答えた子が最も多く、次いで「空」、「川」、「田畑」の3つがほぼ同じで並んでいる。

男女による大きな違いはほとんど見られなかった。

小5は「山」と答えた子が3割を超え「沼」と答えた子は5%不足なのに対し、中3は「山」が23%で「沼」は15%と、小5と中3では「山」と「沼」でやや違いが見られたが、ほかのものは大差がなかった。

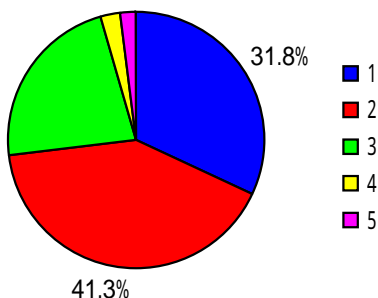
町域別に見てみるとだいたいばらつきが見られ、迫町では「沼」が21.8%で第1位。登米町、東和町、津山町の3町は「山」が抜きんでて多く、米山町と南方町では「田畑」がトップになった。このほか目立ったところでは、「川」は登米町、中田町、豊里町で多く、「鳥」は迫町、「花」は石越町で多かった。

やはり一口に登米市と言っても、特筆すべき自然環境は地域によって異なり、身近な自然が子どもたちの心の中に大きな影響を与えているものと考えられる。

問3 あなたは、自分の住んでいるところの自然がどれくらい豊かだと思いますか。

(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1 とても自然が豊かなところだと思う。	515	31.8%
2 どちらかといえば自然が豊かなところだと思う。	667	41.3%
3 自然の豊かさはふつうぐらいのところだと思う。	363	22.4%
4 どちらかといえば自然がとぼしい(豊かではない)ところだと思う。	42	2.6%
5 ひじょうに自然がとぼしい(豊かではない)ところだと思う。	30	1.9%



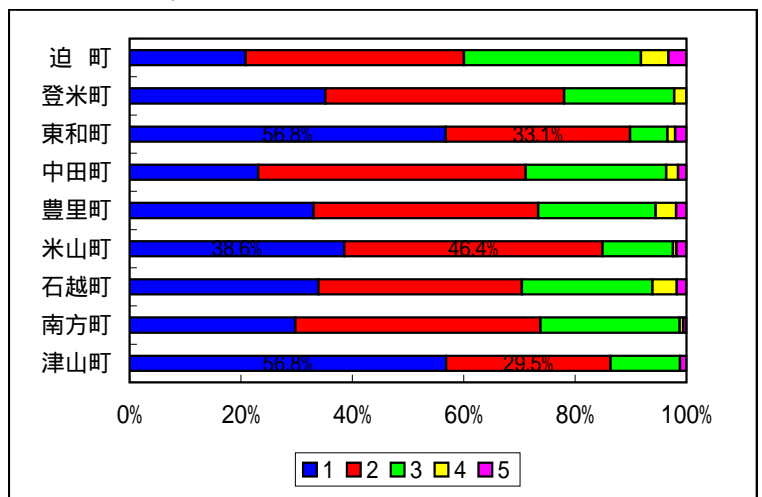
< 解説 >

市全体の7割以上(73.1%)の子が「自然が豊か」と答えており、ふるさとの自然の豊かさを実感している子が大多数を占めていることがわかる。

18歳以上の市民では58%であったことを考えると、大人よりも子どもたちの方がより多く「自然が豊か」と感じているようである。

地域別に見てみると、東和町、津山町では「とても自然が豊か」と答えた子が過半数を超えており、「どちらかといえば自然が豊か」を含めると、東和町では約9割、津山町と米山町では8割を超えている。

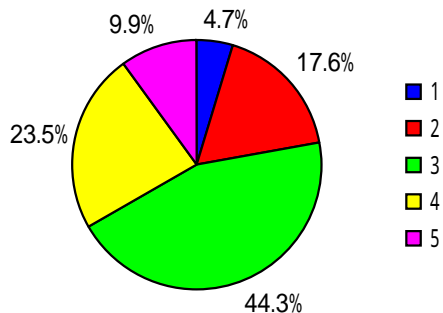
「自然が乏しい」と答えた子は全体ではごくわずかにとどまるが、迫町では8.2%と、他の町域に比べるとやや多かった。



問4 あなたは、自分の住んでいるところがどれくらい発展していると思いますか。

(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1	とても発展しているところだと思う。	76	4.7%
2	どちらかといえば発展しているところだと思う。	284	17.6%
3	発展の程度(ていど)はふつうぐらいのところだと思う。	716	44.3%
4	どちらかといえば発展していないところだと思う。	381	23.5%
5	まったく発展していないところだと思う。	160	9.9%



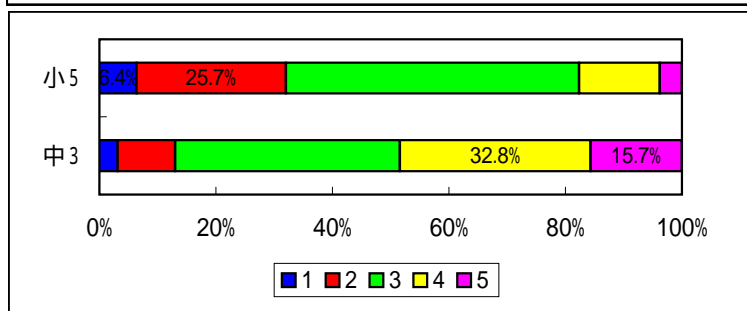
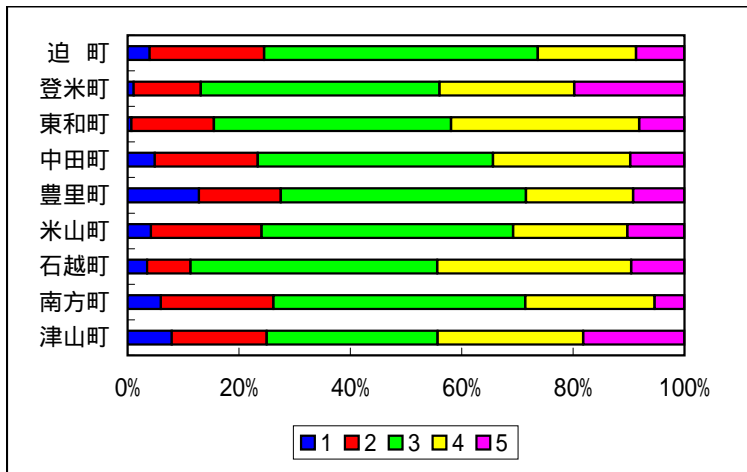
< 解説 >

市全体では、「ふつうぐらい」と答えた子が最も多いが、「発展していない」と答えた子が33.4%に達し、「発展している」と答えた子の22.3%を11ポイントほど上回っている。

18歳以上の市民では、「発展していない」が5割、「発展している」が1割であったので、子どもたちは大人よりも「発展している」と感じているようである。

地域別に見てみると、登米町、東和町、石越町、津山町の4町で「発展していない」と感じている子が4割を超えており他の地域比べるとやや多いが、それでも18歳以上の市民では「発展していない」と答えた方が東和町では8割、津山町では7割に達したのに比べると、子どもは大人ほど「発展していない」とは感じていないようである。

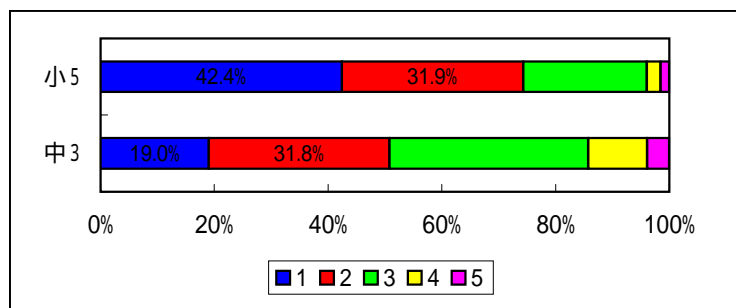
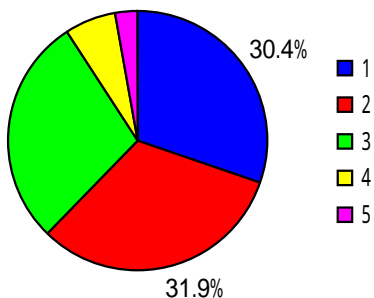
小学生と中学生でも感じ方にはかなりの開きが見られ、小5では「発展している」が32.1%で「発展していない」が17.7%なのに対し、中3では「発展している」が13.0%で「発展していない」が48.5%と逆転している。成長するにしたがって「発展していない」と感じる割合が高まる傾向にあるようである。



問5 あなたは、自分の住んでいるところがどれくらい住みやすいと思いますか。

(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1	とても住みやすいところだと思う。	492	30.4%
2	どちらかといえば住みやすいところだと思う。	515	31.9%
3	住みやすさはふつうぐらいのところだと思う。	461	28.5%
4	どちらかといえば住みにくいところだと思う。	105	6.5%
5	ひじょうに住みにくいところだと思う。	44	2.7%



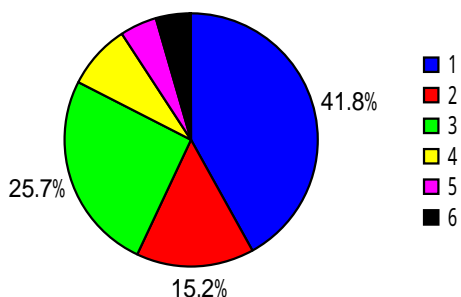
< 解説 >

「とても住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と答えた子が6割以上で、大半の子は「住みやすい」と感じている。これは男女や町域ではあまり大きな差は見られなかったが、「住みやすい」という子は南方町で7割を超えるなどやや多く、登米町ではわずかながらやや少ないという傾向が見られた。

小5と中3を比較してみると、小5では「住みやすい」が74.3%で「住みにくい」が3.9%なのに対し、中3では「住みやすい」が50.8%と小5に比べて20ポイント以上も少なくなり、逆に「住みにくい」が14.3%と10ポイント以上多くなっている。年齢が増すに従って地域への不満や他地域へのあこがれが見え隠れしてくるのかも知れない。

問6 あなたは、自分の住んでいるところの自然が将来どのようになってほしいと思いますか。
(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1	今よりもっと自然が豊かになってほしい。	676	41.8%
2	どちらかという今よりもやや自然が豊かになってほしい。	245	15.2%
3	今のままの自然がずっと残っていてほしい。	415	25.7%
4	どちらかという今よりもやや開発された方がよい。	135	8.3%
5	今よりもっと開発された方がよい。	73	4.5%
6	よくわからない。	73	4.5%

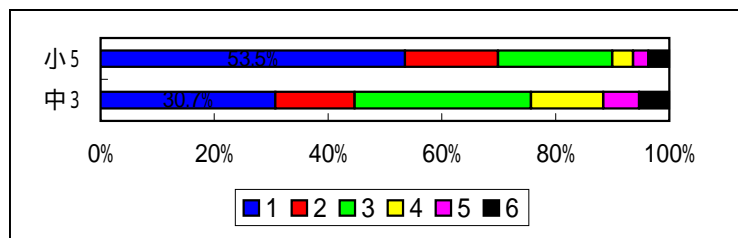
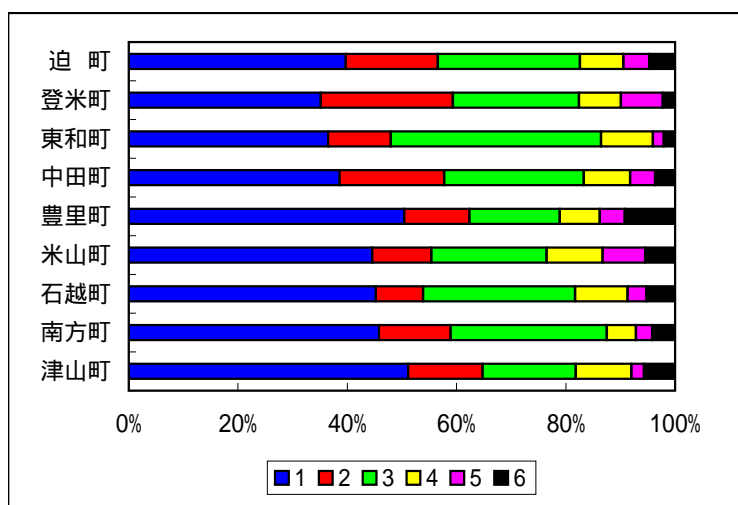


< 解説 >

「今よりも自然が豊かになってほしい」と答えた子が最も多く、「今のままの自然が残ってほしい」という子も含めると8割を超えている。

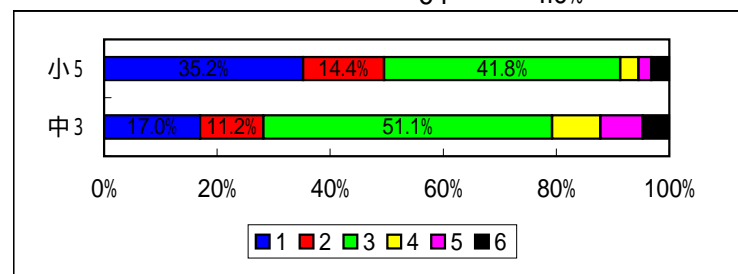
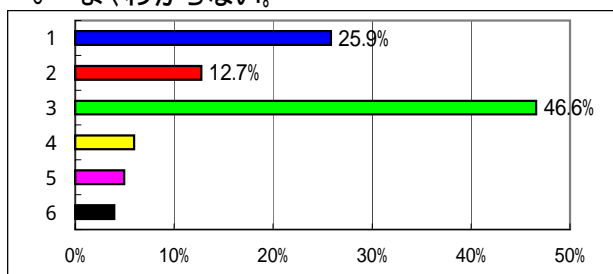
ただ、小5と中3ではややニュアンスが異なり、小5では「今よりもっと自然が豊かになってほしい」が過半数を占めているのに対し、中3では「開発された方がよい」も2割弱に達している。

地域別に見てみると、「自然が豊かになってほしい」という子は津山町でやや多く、東和町ではやや少ない。



問7 あなたは、登米市がこれからしばらくの間、環境と開発のどちらにより力を入れるべきだと思いますか。
(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。しばらくの間とは10年ぐらいとします。)

1	これからしばらくの間は、開発よりもっと環境に力を入れるべきだ。	418	25.9%
2	これからしばらくの間は、開発よりもやや環境に力を入れるべきだ。	206	12.7%
3	環境と開発のバランスをとるべきだ。	753	46.6%
4	これからしばらくの間は、環境よりもやや開発に力を入れるべきだ。	96	5.9%
5	これからしばらくの間は、環境よりもっと開発に力を入れるべきだ。	80	4.9%
6	よくわからない。	64	4.0%



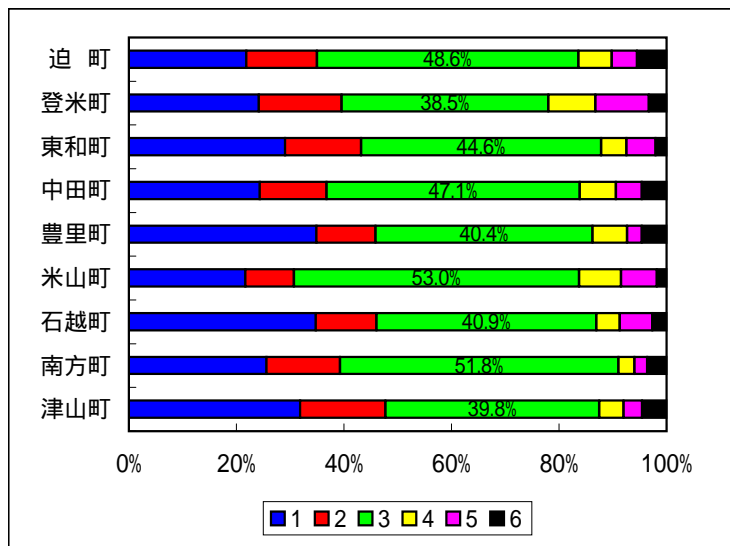
< 解説 >

市全体では、「環境と開発のバランスをとるべきだ」と答えた子が半分弱の46.6%で最も多かったが、小5は「環境に力を入れるべき」が約半数の49.6%を占め、中3では「環境と開発のバランスをとるべきだ」が過半数の51.1%を占めた。

同じ質問に対し、18歳以上の市民では「環境と開発のバランスをとるべきだ」が約6割を占めたので、年齢が上がるほど「環境に力を入れるべき」が少なくなり「環境と開発のバランスをとるべきだ」が増える傾向が見られた。

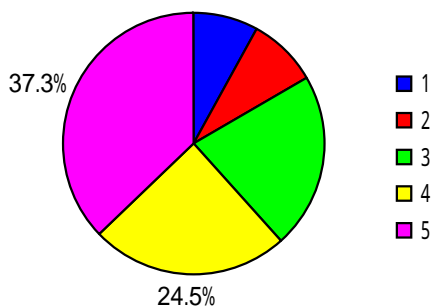
地域別に見てみると、「環境と開発のバランスをとるべきだ」は米山町と南方町で過半数を占め、「環境に力を入れるべき」は東和町、豊里町、石越町、津山町でやや多かった。

また、「開発に力を入れるべき」は登米町でやや多い傾向が見られた。



問8 あなたは、ビルに囲まれた都会と自然豊かなところを比べたら、どちらの方が好きですか。
(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1 ビルに囲まれた都会の方が好きだ。	130	8.0%
2 どちらかというビルに囲まれた都会の方が好きだ。	139	8.6%
3 どちらともいえない。	349	21.6%
4 どちらかという自然豊かなところの方が好きだ。	396	24.5%
5 自然豊かなところの方が好きだ。	603	37.3%

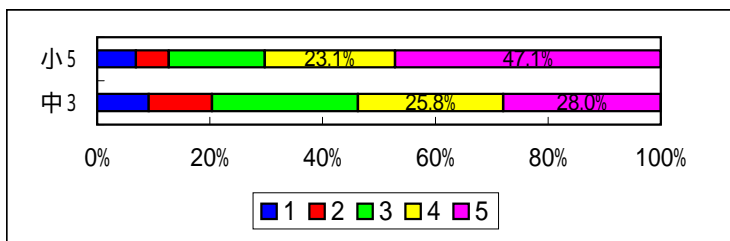
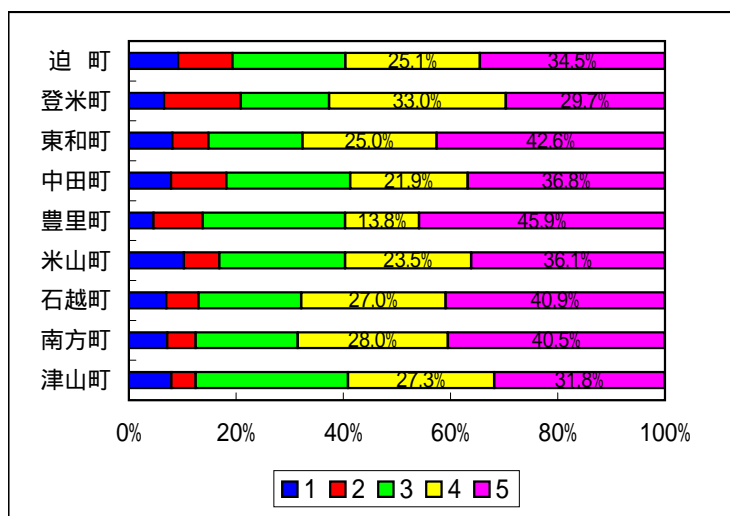


< 解説 >

市全体では「自然豊かなところの方が好き」という子が6割以上を占めている。

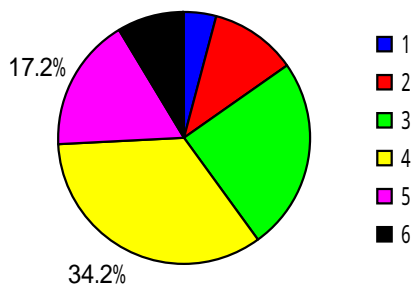
地域別に見てみると、「自然豊かなところの方が好き」という子は東和町、石越町、南方町の3町で特に多く、「ビルに囲まれた都会の方が好き」という子は登米町で2割を超えやや多い傾向が見られた。

小5と中3との比較では、中3になると明らかに「自然豊かなところの方が好き」という子が減って「ビルに囲まれた都会の方が好き」という子が増え、都会へのあこがれが芽生えてくるようである。



問9 あなたは、今の日本の社会(世の中)が環境にやさしい(配慮をしている)社会だと思いますか。
(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1 とても環境にやさしい社会だと思う。	67	4.1%
2 どちらかといえば環境にやさしい社会だと思う。	179	11.1%
3 どちらともいえないと思う。	400	24.7%
4 どちらかといえば環境にはやさしくない社会だと思う。	553	34.2%
5 まったく環境にはやさしくない社会だと思う。	278	17.2%
6 よくわからない。	140	8.7%



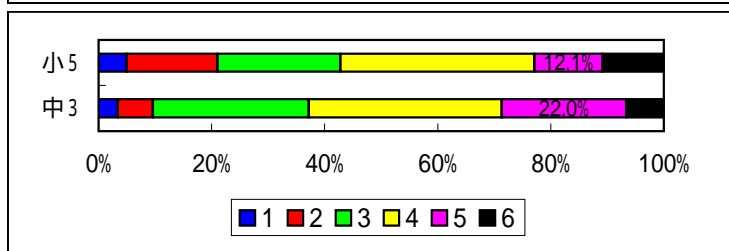
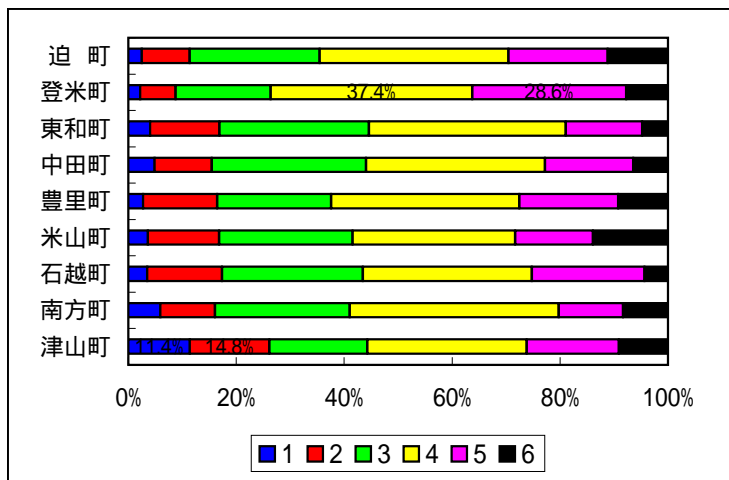
< 解説 >

市全体では、51.4%と過半数の子が「環境にはやさしくない社会だ」と答えている。

地域別に見てみると、「環境にはやさしくない社会だ」と答えた子は登米町で最も多く、66.0%にも達している。

津山町では「環境にやさしい社会だ」と答えた子が他の地域に比べるとやや多い。

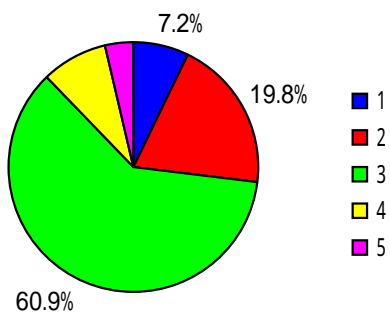
小5と中3との比較では、中3になると「環境にやさしい社会だ」という子が減って「環境にはやさしくない社会だ」という子が増え、社会を見る目が厳しくなってくるようだ。



問10 あなたは、日ごろの生活で環境にやさしい(配慮をしている)方だと思いますか。

(自分の考えに最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

- | | | | |
|---|--------------------------------|-----|-------|
| 1 | とても環境にやさしい方だと思う。 | 116 | 7.2% |
| 2 | どちらかといえばほかの人よりも環境にやさしい方だと思う。 | 321 | 19.8% |
| 3 | 環境へのやさしさはふつうぐらいだと思う。 | 984 | 60.9% |
| 4 | どちらかといえばほかの人よりも環境にやさしくない方だと思う。 | 138 | 8.5% |
| 5 | ぜんぜん環境にはやさしくない方だと思う。 | 58 | 3.6% |



< 解説 >

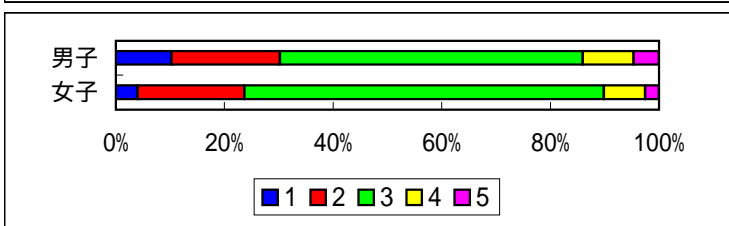
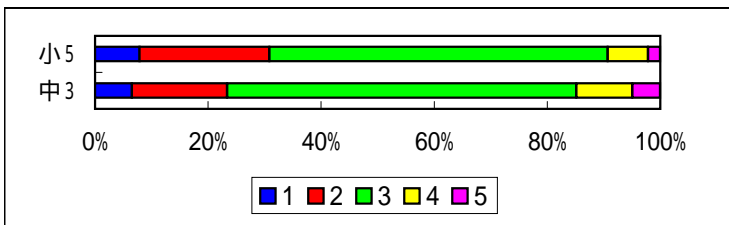
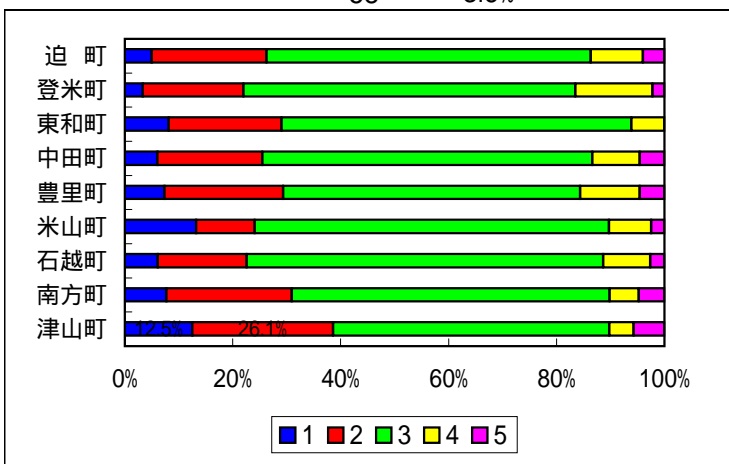
市全体では「環境へのやさしさはふつうぐらいだ」という子が6割を占めて最も多かった。

町域別に見てみると、津山町で「環境にやさしい方だ」という子がやや多く、登米町で「環境にやさしくない方だ」という子がわずかながら多い傾向が見られた。

小5と中3との比較では、中3になると「環境にやさしい方だ」という子がやや減って「環境にやさしくない方だ」という子がやや増える。

男女別では、女子では「環境へのやさしさはふつうぐらいだ」という子が男子よりも多く、男子では「環境にやさしい方だ」という子も「環境にやさしくない方だ」という子も女子より多かった。

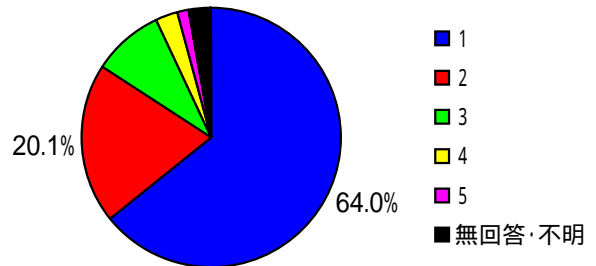
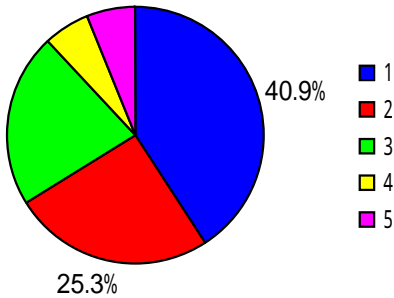
18歳以上の市民との比較では、子どもの方が環境にやさしくない傾向が見られ、子どもへの環境教育の強化がより必要のようだ。



問11 あなたは、学校や自分の家で、資源ごみを回収できるようにほかのごみと分けて捨てていますか。
(自分に最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1	いつも資源ごみとほかのごみを分けて捨てている。	662	40.9%
2	いつもではないが資源ごみとほかのごみを分けて捨てることの方が多い。	409	25.3%
3	分けたり分けなかったり半々ぐらいである。	355	22.0%
4	分けて捨てることもあるが、分けなくて捨てることの方が多い。	92	5.7%
5	ほとんど分けなくて捨てている。	99	6.1%

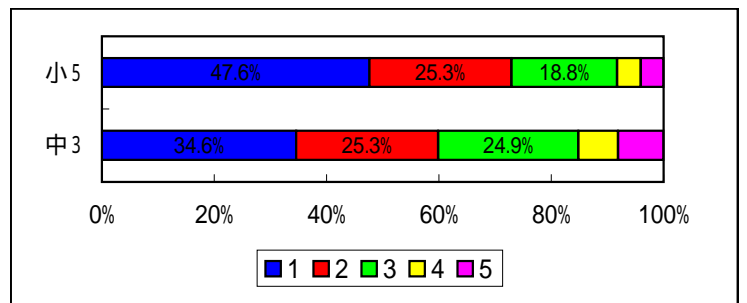
<参考:18歳以上の市民>



<解説>

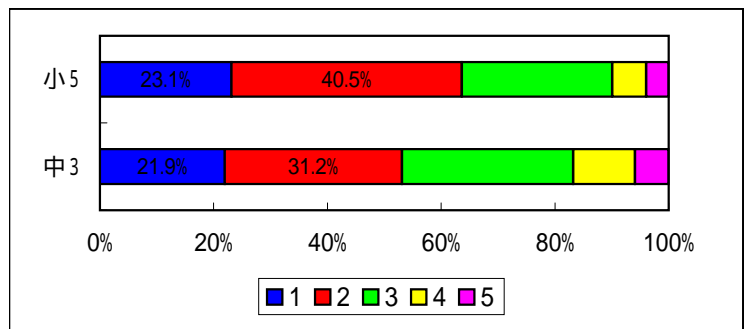
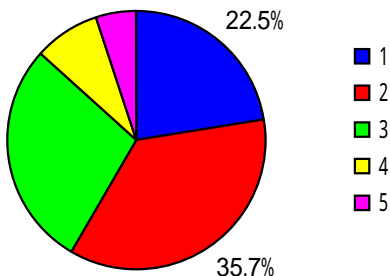
「いつも分ける」が40.9%を占めているが、同じ質問に対して18歳以上の市民が「いつも分ける」と回答した割合(64.0%)に比べると23ポイントも低い。また、「分けなくて捨てる方が多い」と「ほとんど分けなくて捨てる」は合わせて11.8%だが、18歳以上の市民では4.2%にとどまっており、子どもへのごみ分別の浸透不足がうかがわれる結果であった。

小5と中3との比較では中3が特に悪く、「分けなくて捨てる方が多い」と「ほとんど分けなくて捨てる」は合わせて15.2%にも達している一方、「いつも分ける」は小5(47.6%)よりも13ポイントも低い34.6%にとどまっている。中学生へのごみ分別の普及啓発は急務の課題かと思われる。



問12 あなたは、日ごろの生活で、むだな電気や水道などをこまめに消したり止めたりしていますか。
(自分に最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

1	いつもこまめに消したり止めたりしている。	364	22.5%
2	どちらかといえばこまめに消したり止めたりしている方だ。	578	35.7%
3	消したり止めたりをしたりしなかったり半々ぐらいである。	458	28.3%
4	どちらかといえばあまりこまめには消したり止めたりしていない方だ。	137	8.5%
5	ほとんどこまめには消したり止めたりしていない。	80	5.0%



<解説>

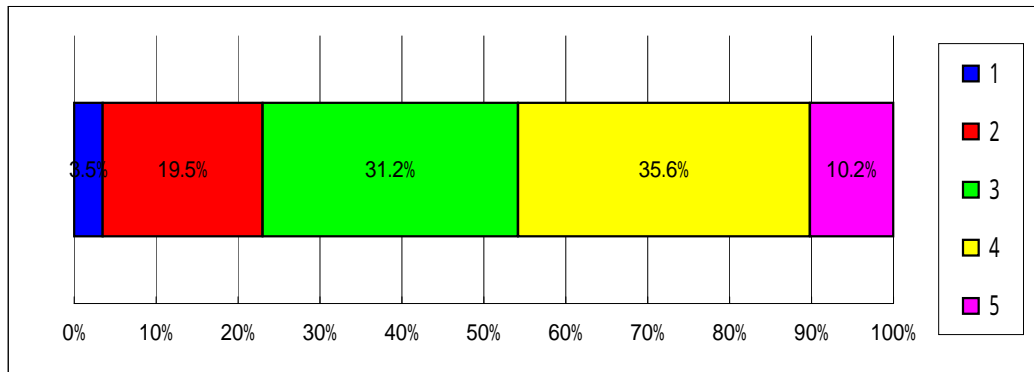
「いつもまたはどちらかといえばこまめに消したり止めたりする」と答えた子が6割弱いるが、小5と中3とを比較すると、「いつもまたはどちらかといえばこまめに消したり止めたりする」子が10ポイント減り、「ほとんどまたはどちらかといえばこまめに消したり止めたりしない」子が約7ポイント増えている。こちらも中学生にはもっと努力してもらわなければならないと思えるような結果であった。

地域別では登米町が、男女別では女子が幾分かこまめに消したり止めたりしているようだ。

問13 最近、地球温暖化が問題になっていますが、あなたは地球温暖化についてどれくらい知っていますか。

(自分にあてはまるもののうち、一番大きな番号を1つ で囲んでください。)

- | | | |
|--|-----|-------|
| 1 「地球温暖化」という言葉は、これまで聞いたことがない。 | 56 | 3.5% |
| 2 「地球温暖化」という言葉は聞いたことがあるが、よくわからない。 | 316 | 19.5% |
| 3 地球温暖化で海面が上がったり、氷河がとけて小さくなってきている話を聞いたことがある。 | 504 | 31.2% |
| 4 石油などを使うと発生する二酸化炭素が地球温暖化の原因の1つであることを知っている。 | 576 | 35.6% |
| 5 日本は、京都議定書で温暖化ガスの排出量を6%削減する約束をしたことを知っている。 | 165 | 10.2% |

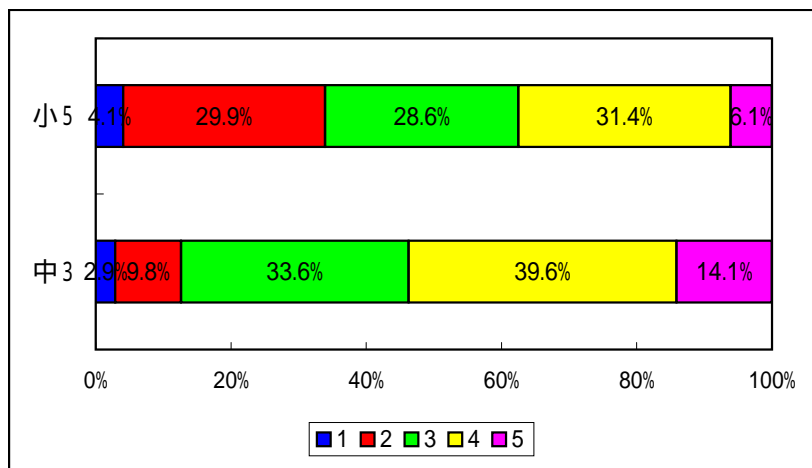


< 解説 >

右のグラフからも学年が高くなるほど理解が深まっていく様子が分かる。特に中3では地球温暖化の原因まで理解している子が過半数を占め、これは18歳以上の市民よりも数ポイント高い。

この結果から、中学生は地球温暖化について、頭の中では十分理解している様子がうかがえる。ただ、問11や問12を見る限り小学生や大人ほど実行が伴っていないようである。

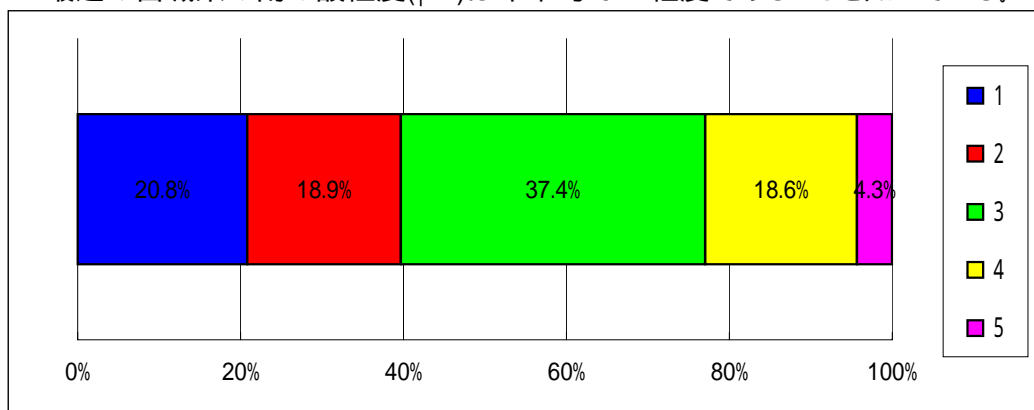
地域別では、登米町と東和町で他の町域に比べると理解度が高いのが目立った。



問14 最近、酸性雨が問題になっていますが、あなたは酸性雨についてどれくらい知っていますか。

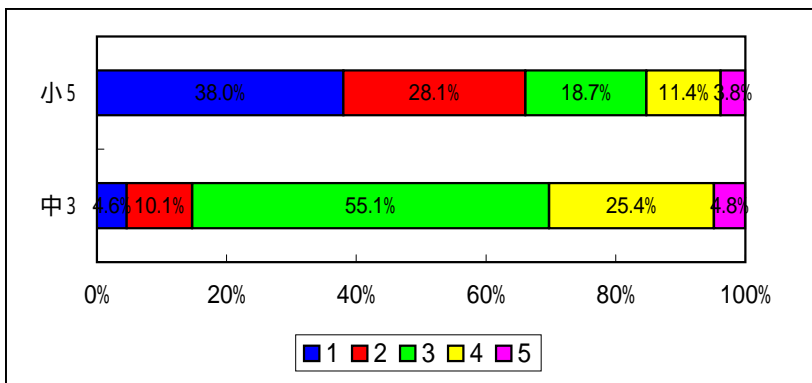
(自分にあてはまるもののうち、一番大きな番号を1つ で囲んでください。)

- | | | |
|--|-----|-------|
| 1 「酸性雨」という言葉は、これまで聞いたことがない。 | 337 | 20.8% |
| 2 「酸性雨」という言葉は聞いたことがあるが、よくわからない。 | 305 | 18.9% |
| 3 酸性雨で樹木がかれたり、コンクリートがもろくなる話を聞いたことがある。 | 604 | 37.4% |
| 4 工場から出された亜硫酸ガスなどが酸性雨の原因の1つであることを知っている。 | 301 | 18.6% |
| 5 最近の宮城県の雨の酸性度(pH)は年平均で4.7程度であることを知っている。 | 70 | 4.3% |



< 解説 >

この設問は小5には難しかったようだが、中3はほとんどの子が酸性雨とはどのようなものかを知っていた。ただ小5でも詳しい子は中3と肩を並べるぐらいの知識を持っているようである。
地域別では、これも問13と同様に、登米町と東和町の子の理解度が他の町域に比べて目立って高かった。

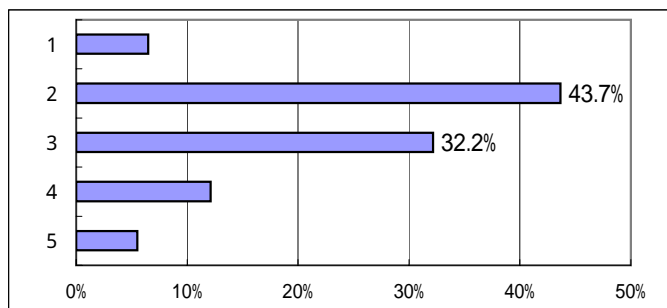


問15 あなたは、お店で買い物をした時に渡されるレジ袋をどうしていますか。
(自分に最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

- | | | | |
|---|-------------------------------------|-----|-------|
| 1 | 買った物を家でレジ袋から出したら、あとは使わずに捨てている。 | 106 | 6.5% |
| 2 | 買った物を家でレジ袋から出したあと、ごみ袋として使ってから捨てている。 | 706 | 43.7% |
| 3 | 買った物を家でレジ袋から出したあと、他のものを入れたりして使っている。 | 520 | 32.2% |
| 4 | 必要な時はもらうが、いらぬ時はレジ袋をもらわない。 | 196 | 12.1% |
| 5 | 買い物の時には自分のかごや袋を持ち歩き、レジ袋はなるべくもらわない。 | 89 | 5.5% |

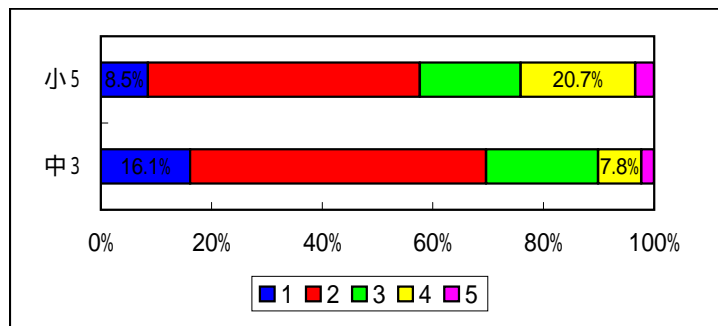
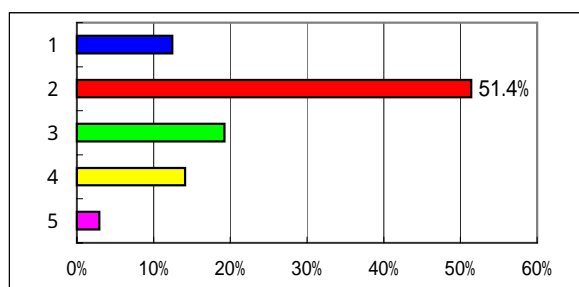
< 解説 >

この設問は、小5と中3、男子と女子、各町域であまり目立った違いは見られなかった。
レジ袋を断る子はまだまだ少ないが、もらったとしても有効に再利用している子がほとんどで、むだに捨てている子はわずかであった。



問16 あなたは、買い物をする時、エコマークのついた商品など、環境にやさしい商品を選んでいきますか。
(自分に最も近いと思う番号を1つ で囲んでください。)

- | | | | |
|---|------------------------------------|-----|-------|
| 1 | エコマークや環境にやさしい商品とは何なのかよくわからない。 | 201 | 12.4% |
| 2 | エコマークなどは知っているが、買い物をする時には気にしていない。 | 831 | 51.4% |
| 3 | できれば環境にやさしい商品を買いたいですが、値段が高ければ買わない。 | 311 | 19.2% |
| 4 | いつもではないが、できるだけ環境にやさしい商品を選ぶようにしている。 | 228 | 14.1% |
| 5 | エコマーク商品など環境にやさしい商品をいつも選ぶようにしている。 | 46 | 2.9% |



< 解説 >

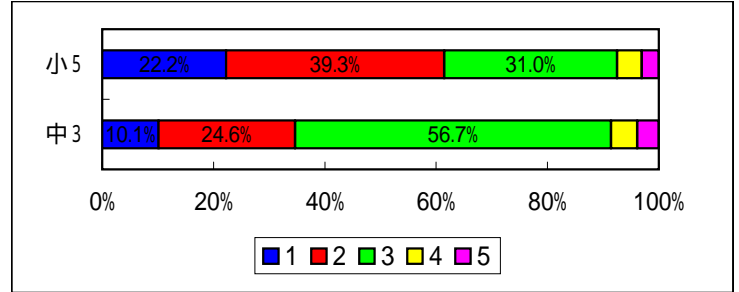
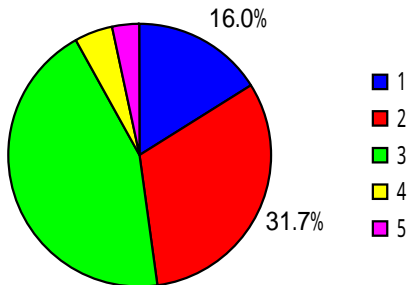
この調査結果を見る限りでは、環境にやさしい商品の選択という点では、小5の方が中3よりも環境にやさしい消費行動をとっていることが分かる。エコマークや環境にやさしい商品についてよく知らない人は18歳以上の市民では10.9%であったが、小5は大人よりも知っている子が多い反面、中3は大人や小5よりも知らない子が多いようだ。

また、「いつもまたはできるだけ環境にやさしい商品を選ぶ」という子は小5で24.1%なのに対し、中3では10.1%。18歳以上の市民が24.3%で小5とほぼ同じであったから、中3のこのポイントの低さが目立つ結果となった。

こうした結果を見ても、環境教育は中学生に対してもう少し力を入れる必要があるように思える。

問17 あなたは、環境のことを学ぶのが好きですか。
 (自分の考えに最も近いと思う番号を1つで囲んでください。)

1 とても好きだ。	259	16.0%
2 どちらかといえば好きな方だ。	513	31.7%
3 どちらともいえない。	715	44.2%
4 どちらかといえばきらいな方だ。	74	4.6%
5 とてもきらいだ。	56	3.5%

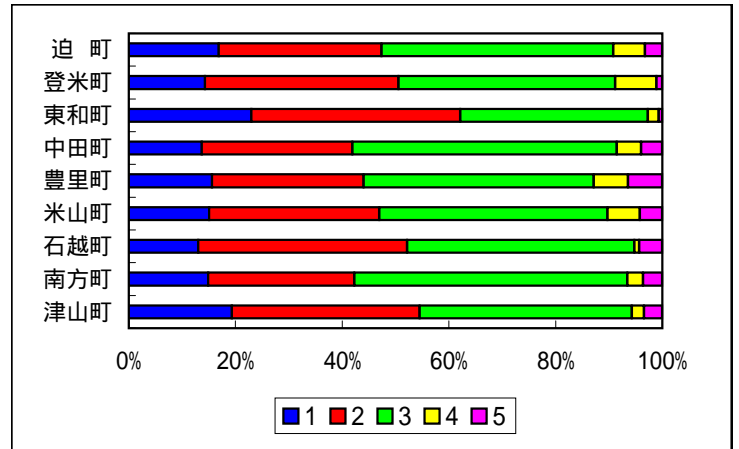


< 解説 >

「とてもまたはどちらかといえば好き」という子は、小5では61.5%に達するが、中3では34.7%に急減する。18歳以上の市民が43.3%であることを考えると中3で環境学習が好きだという子の少なさが目立つ。ただ、きらいだという子はあまり増えていないので、中学生は忙しくて環境学習にまではなかなか手が回らないのが実情かも知れない。

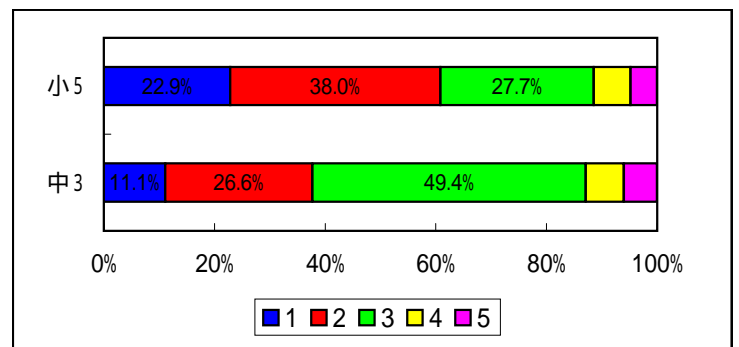
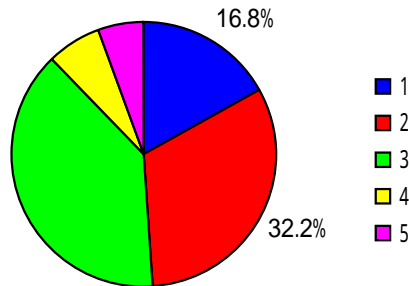
小学生は環境を学ぶ意欲が旺盛なので、それに比べられるように、小学生向けの環境学習教材を充実させたり、環境学習の機会をもっと多くする必要があろう。

地域別では、東和町で環境学習に意欲のある子が多いようである。男女別ではあまり差は見られない。



問18 あなたは、家族や友だちなどといっしょに、環境を守る活動に取り組んでみたいと思いますか。
 (自分の考えに最も近いと思う番号を1つで囲んでください。)

1 ぜひ取り組んでみたい。	272	16.8%
2 どちらかといえば取り組んでみたい。	520	32.2%
3 どちらともいえない。	628	38.8%
4 どちらかといえば取り組みたくない。	109	6.7%
5 まったく取り組みたいと思わない。	88	5.5%



< 解説 >

「ぜひまたはどちらかといえば取り組んでみたい」という子が、小5では60.9%に達するが、中3では37.7%に急減し、「どちらともいえない」が急増する。「ぜひまたはどちらかといえば取り組んでみたい」という人は18歳以上の市民では44.8%であることを考えると、こちらも中3の少なさが目立つ。ただし、「ぜひまたはどちらかといえば取り組んでみたい」という人は70歳以上が45.2%なのに対して18歳以上40歳未満では39.0%なので、やはり時間に余裕のある年代ほど環境保全活動への意欲が高く、中学生以上から働き盛りまでの年代では、忙しかったり趣味の多様化などでなかなか環境保全活動に取り組むところまで手が回らないのかも知れない。それでも意欲のある子は相当数いる訳なので、そうした子に対してしっかりした支援を考えていくべきであろう。